

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673300077
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	鹿児島県日置市日吉町日置478番地 (電話) 099-292-2034
自己評価作成日	令和4年1月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中にあり、緑も多くまた車の交通量も少なく安心してゆっくり生活を送れる環境です。地域行事も比較的多い地域ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けイベントが中止となり、参加できない状況でしたが、施設内のイベント内容を工夫し利用者の皆様に楽しんで頂けるよう努めております。また、あおぞら農園では継続して皆さんと野菜作りを行い季節の野菜を楽しんで頂いております。介護につきましては、利用者様の身体能力の低下や認知症の進行状況を検討し離床センサーを使用。危険の早期発見や転倒防止に努めております。新型コロナウイルス感染症対策については、定期的な換気・施設内の消毒を行い、また施設に持ち込まないよう職員の普段の生活についての指導を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、日置市の中心地から10キロ程離れた日吉地区の一角に、平成18年に開設されている。平屋建ての2つのユニットは、玄関を中心に対照的に繋がっており、日常的に利用者同志の交流や職員間の連携、協力が図られている。幹線道路から少し入った閑静な住宅地に位置しており、少し離れて市日吉支所や小学校、金融機関、スーパーマーケット、書店、食料品店等があり利便性も良い。利用者は四季を感じながら平穏に過ごせる環境である。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して情報の把握に努め、総会の出席や奉仕作業に参加し、散歩時の挨拶や野菜や果物等を頂いたり、また、地域住民から寄せられる認知症対応等の相談には専門性を生かして丁寧に助言している。災害時の協力体制も築築く等、地域の一員として良好な交流が図られているが、コロナ禍の為、現在は施設見学や中学生の体験学習、ボランティア等の受け入れやホームの行事への家族や住民の参加による交流は自粛している。

管理者及び職員は、ホームの理念に「あなたの歩みに合わせて、自由な風の中、明るく健康であなたらしく、安心して生活を送れるよう、そっと寄り添います」を掲げ、玄関やホールに掲示し、毎朝、唱和も行って意義を共有している。理念はケアの基本であることを常に意識し、振り返りや意見交換等も行いながら、尊厳や人格、想いを大切にされた利用者主体のケアに取り組んでいる。利用者及び家族からの意向や要望を日頃のケアの中や面会、電話、LINE等で把握し、ミーティング等で協議して改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている。

ひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念の唱和を行い、意識づけをしている。	ホームの理念に「明るく健康であなたらしく安心した生活」の支援を掲げ、目に付きやすい玄関やホールに掲示し、毎朝、唱和も行って周知を図っている。、日頃のケアの中やミーティング等でケアの振り返りや意見交換等を行って意義を共有し、理念に沿った支援に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年同様、新型コロナウイルスの感染予防の為交流を一時停止している。	コロナ禍により、いろいろな制限はあるが、自治会の総会に出席し奉仕作業への参加や散歩時の挨拶、農産物を頂く、訪問美容の実施等の交流に取り組み、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談等にも専門性を活かして助言に努めているが、ボランティアの受け入れホームの行事に家族や地域の人の参加等は自粛している。地域の自主防衛活動の組織には加入していないが、災害時の協力体制は築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	上記同様		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年同様、文章で行っている。その都度郵送で意見、評価を頂きサービス向上に活かしている。	会議は、家族、町内会長、民生委員、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して一堂に会することは控えて書面での会議に変更している。利用者の状況やホームの運営、行事、感染症予防、ヒヤリハット等を資料にして委員に送付し、返信用封筒も同封して意見や地域の情報等を貰っており、寄せられた要望や意見はミーティング等で検討して運営やケアの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	文章での報告や状況に応じて電話でのやり取りを行っている。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議、生活保護受給中の利用者（2人）の処遇に関する連携等を、市役所本所や日吉支所の窓口や電話で行い、指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは日頃から協力関係を築いている。市からの情報の把握に努めリモート研修にも参加してサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束廃止委員会を開き会議内容を閲覧できるようにしている。	身体拘束については運営規定や重要事項に明記され、計画的に研修を実施して認識を共有している。毎月のミーティングや日頃のケアの中で振り返りや意見交換等を行って、拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化に関する指針を整備し、指針に基づき身体拘束廃止委員会も年4回開催しており、指針及び会議録は事務室に置いて、職員の閲覧に供している。利用者の思いは日頃の関りの中で汲み取りに努め、尊厳や個性、習慣を大切にされた支援に取り組んでおり、昼間は玄関の施錠はしないで対話や散歩の同行で安定を図り、職員の不適切な言動には、その都度、注意や助言に努めて改善を図っている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い知識を深めたり、お互い注意し合える状態を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が行う勉強会に参加し伝達講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所の際文章と口頭で本人、家族へ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口を設けている。月1回は家族へ電話連絡を行い、報告や要望等の確認を行っている。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮しており、利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取りに努め、家族からは窓越しでの面会や電話、LINE等で、また、園便り「あおぞら」の送付や月1回は電話で家族に利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された意見・要望等は、ミーティング等で協議して改善に繋げている。コロナ禍により家族会は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフに対し声掛けをし、意見や提案を聞いている。	管理者及び職員は日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めている。日頃の業務の中や申し送り、ミーティング時に意見や要望を出し合い、パート職員には契約更新時に個人面談も行って業務やサービスの向上を図っている。管理者は、業務に対する助言・指導やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や健康状態、個人的事情等も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。外部研修受講時の経費については法人による助成の体制が築かれて、職員のモチベーションアップになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍の為、必要最低限の研修のみ行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の為、現在行えない状況である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者の前ではなかなか本心が聞けないことが多いので1対1になった際に時間をかけて話をしたり、普段から声掛け回数を増やすように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所日の翌日には必ず電話連絡をし、状況報告をおこなったり、しばらくはまめに連絡を取り要望等の確認を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始前に家族より情報を頂いたり、本人と面談をしアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする中で本人に寄り添って様々な話に傾聴したり、利用者から進んで行動できるような関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍で外出などが出来ない為、電話で話をして頂いたり少しではあるが面会の時間を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙でのやり取りや電話で話をする機会を作っている。	利用者や家族、関係者からの情報で利用者毎の馴染みの情報を把握している。コロナ禍に配慮して、家族との面会は窓越しで実施し、電話や手紙の取り次ぎ、写真を添付した園便りの送付等、工夫して関係の継続に努めているが、外食、会食、墓参等は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の合う合わないを見極めた席の配置や、会話の中にスタッフが入りより良い関係づくりが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も現在どうしているか電話をしたり相手から連絡があった際は対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通して希望や意向を聞き取りし、それに沿ったプラン作成を行っている。困難な場合は家族より聞き取りしたり動きを見てプラン作成している。	高齢・重度化により発語が難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるよう取り組んでいる。利用者の意向に沿って懐かしい音楽やテレビの視聴、菜園の作業、漬物作り（ラッキョウ漬、梅干し他）、テーブル拭き等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉を添えて、自己肯定感の持てる日常生活を送っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活歴や趣味を聞き取りし、それを生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活動作の確認や入浴の際に体の確認を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人に要望を聞き取り、スタッフへもどういったケアが必要か聞き取りを行い、総括しプラン作成を行っている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示や毎月のモニタリング時の職員の意見を基に、改善点や課題等を確認し残存機能、習慣、楽しみ事等にも配慮した介護計画を作成している。通常は半年毎に見直して計画を更新しているが、状態の変化時には計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得てケアに取り組んでおり、実施状況は申し送りや介護記録等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な様子を介護記録に記し、また計画作成担当で支援経過を別で記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほぼ多くの本人（家族）のニーズに対応ができているが、一部の家族でニーズが強すぎて困難なことまで訴えてこられる為、柔軟な支援ができない場合がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協、民生委員との連携を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の前後に家族へ報告と意向の確保を行い、かかりつけ医へ報告、相談を行っている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在5医療機関を主治医として治療を継続している。定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診もコロナ禍に配慮してホームで対応している。看護職員2人を中心に、日頃から衛生や健康管理に努め、健康状態は家族にも密に報告して共有を図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>受診時や特変時に施設看護師や訪問看護師へ報告し適切な処置につなげている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際スタッフが同行したり、サマリーを用いて情報共有を行う。入院中は訪問や連絡を取り病院の相談員やケアマネと連携をとっている。退院時は調整を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>その都度状態を報告し、その都度家族から今後の希望を聞き取りし、職員間で情報共有できるように申し送りノートに記入している。</p>	<p>重度化や看取りの対応指針を整備しており、利用開始時に、本人や家族に説明して理解を得て同意書も貰っている。入所後は病状に応じて随時、話し合いや意向の確認を行い、可能な限り家族の想いに沿ったケアを訪問看護も組み入れた体制で取り組んでおり、昨年も2人の看取りを実施し、現在も1人看取り介護中である。看取り終了後は、振り返りや意見交換を行って、スキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルに沿って対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を定期的に行っている。</p>	<p>夜間発生も想定した火災を主とした災害訓練を年2回（内1回は消防署立ち合い）実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。また、風水害、地震災害時の対応は自主訓練で取り組み、日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行っている。3日分以上の食料や飲料水を備蓄し、カセットコンロやラジオ、懐中電灯等も備えており、近隣の住民との災害時の協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活環境や生活歴に応じた言葉かけを心がけている。	人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については運営規定や重要事項に明記され、接遇研修の実施や日頃の業務の中で意見交換等も行って認識を共有している。入室時はノックや声掛けを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮した適切な言葉やトーンに努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、思いを引き出しているが、重度化に伴い自己決定したことを実行できなくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化に伴い一人ひとりのペースに合わせたケアが出来ていない事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や入浴時、鏡を見ながらセットしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化しており食事摂取することではいっばいいいっばいになっている。	食事は利用者にとって一番の楽しみで関心も深いことから、好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け等に細かに配慮し、菜園で収穫して野菜も活用して調理している、おせちや節句、敬老会などの行事食や誕生日やクリスマスのケーキ、手作りのおやつ、丼物や麺類の出前、利用者と一緒にラッキョウ漬けや梅干しづくり等工夫し、利用者も食材の下処理やお盆拭き等を楽しみながら行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外出等は控えている。。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態にし、個別支援が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	重度化に伴い自力で出来る方が少なく、全介助が多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	重度化に伴い排泄障害の方が多く、時間で誘導や交換を行っている。	利用者の身体の状態やパターン等を把握し、プランに反映させて支援に取り組んでおり、布パンツの利用者も多い。常時オムツ使用も2人いるがポータブルトイレの利用者はいない。昼間は声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援して排泄感覚の維持に努めており、オムツからリハビリパンツへの改善も見られている。利用者の状態に応じて介護用品やケアの方法を工夫し、便秘の予防に植物繊維の多い食材や乳製品、水分の摂取、運動量に配慮し、状況によっては主治医に相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり排便コントロールを行っている（服薬にて）。また必要に応じて肛門マッサージを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	重度化に伴いどうしても曜日は固定になっているが、順番はその時に応じて変えている。	週3回、個浴での入浴を基本としているが、利用者の意向や身体状況に配慮して、清拭への変更や2人介助も取り入れて清潔を保っている。連日の入浴や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応してゆっくり楽しんでもらっており、入浴後は水分補給や保湿軟膏の塗布等を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の重度化に伴い不眠や昼夜逆転の方が多く薬にてコントロールしているが難しい状態。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に本人に説明しながら服用して頂いているが理解が難しく拒薬も見られる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化に伴い役割や楽しみ事への関心が薄れているが、定期的に季節のイベントを行い気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援は休止している。	コロナ禍でいろいろ制限はあるが、感染予防対策を徹底して周辺の散歩や日光浴、通院、初詣等で等を取り組み、少人数でのドライブで街並みや自宅周辺、風景等を車窓から楽しむこともあるが、一時帰宅や外泊、外食、墓参等は控えている。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの外出計画も十分には実施できない状況が続いているため、室内での軽い体操や弁論大会、カラオケ大会、菜園での作業・収穫、テレビの視聴等に取り組んでリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人の利用者以外は所持していない。(手元にないと落ち着かない為)</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望があった場合はしているが、ほとんど聞かれない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度・湿度の管理。テレビの音量調整。季節の飾りつけ</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、天窓で明るく余裕あるスペースが確保されている。テーブルやソファ、テレビ等が利便性に配慮して設置され、利用者の作品や行事の写真、季節感のある活花等が随所に飾られ、厨房からは調理の音や臭いも伝わり和やかな雰囲気である。また、園庭には多くの樹木や草花が植えられ、菜園も設けてある。清掃や空調、整理整頓等に努め、手指消毒剤も設置され、また、不快に感じる臭いや騒音もなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う方で隣にしたり工夫しているが、粗暴行為や不穏が多く出たりすることが多く難しく、一人の居場所をしっかりと作られているが、疑問が多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族より本人が大事にしていたものを持ってきてもらったり、整理整頓には気を付けている。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、タンスが利用者の動線等に配慮して設置されている。利用者は自宅で愛用していた毛布やテレビや家族写真、人形、小物等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾って、その人らしい落ち着いた雰囲気の居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>重度化に伴い、転倒リスクも高い為危険因子を取り除く事に努めているが、自立した生活は難しい。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		0	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		0	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		0	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		0	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		0	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	0	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	0	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	0	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	0	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	0	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		0	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		0	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		0	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない